えでゅけ インフォメーション

■2016年　BGTP（インストラクター養成講座）

■BGTP　日程　2016年7月16日（土）～18日（月・祝）＆30日（土）31日（日）
連続５日間の開催ではありませんが、宿泊を伴う講座です。関西での開催予定です。
関東での開催は2017年2月を予定しています。

■教育キネシオロジー創始者ポール・デニソン氏 開催講座

■デニソン全脳学習メソッド　Dennison Whole Brain Leaning Method (BG 102)
9 月 17 日（土）～19 日（月・祝）
予定受講価格：129,600 円（税込み）会員割引の場合：124,200 円

■創始者から学ぶ一日講座　Master At Work, Level 1 (BG 180)
9 月 22 日（木）
予定受講価格：19,440 円（税込み）会員割引なし

■創始者から深く学ぶ　Master in Depth (471)
9 月 23 日（金）～25 日（日）
2016 年 9 月の時点で資格更新をされているインストラクターのみが参加できます。
財団の HP に 24 時間で掲載されている講座ですが、一人でも多くのインストラクターの方が個々のご都合にあわせて参加できるように、1 日だけでも、2 日間だけでも参加可能となりました。
予定受講価格：３日参加：108,000 円
２日間参加：75,600 円　１日参加：37,800 円
＊会員割引の 5,000 円は３日間の講座参加者のみです。

協会主催　■海外講師による特別講座

■ブレインジム170
「特別支援を必要とする子ども達と
ブレインジムを結びつける」
講師：セシリア・ケスター

■MBLTT
ビルディング・ブロック・アクティビティ指導者養成講座
講師：セシリア・ケスター

【申し込み】事務局　jimukyoku@edu-k.jp

●<えでゅとく>は、知ってるとちょっとお得な豆知識コーナーです

耳の迷路は奥深い②

天田 武志　（神奈川）

なぜ耳は平衡覚と聴覚という性質の違う2つの感覚を受容するようになったのか、という話の続きです。
魚には側線器という“水の動き”を知るための感覚器官があるということを前号でご紹介しました。水の動きのほかに、水を伝わってくる周波数の低いかすかな震動に対しても、敏感に反応する感覚細胞が分化してきました。これが聴覚部の始まりだと考えられています。
陸に上がった脊椎動物には側線器が不要になったため退化してしまいました。しかし、振動を感じる感覚細胞は内耳の膜迷路という器官の中で生き残り、その結果、膜迷路は平衡覚と聴覚を受容する受容器になったと考えられているそうです。
つまり、水の流れや自分の身体の向きを感知する側線器の一部が、震動も感受するようになり、長い年月をかけて頭蓋骨の中に入り込み、膜迷路になったということですね。
陸棲生物は空気振動を膜迷路の感覚細胞に伝えるために中耳という伝音システムが必要になりました。エラを利用して中耳が作られたと考えられています。中耳には耳小骨が存在し、鼓膜の振動を膜迷路の入り口に伝えています。膜迷路はリンパ液で満たされているのですが、空気中の振動エネルギーは比重の大きな液体には約0.1％しか伝わらないため、中耳が必要となりました。中耳では音の性質を変えず音圧のみを増強させるので、空気中の音波はほとんど減弱することなく膜迷路に伝わるのです。

NPO法人日本教育キネシオロジー協会
ブレインジムに関するお問合せはこちらまで
http://www.edu-k.jp
jimukyoku@edu-k.jp

学びへの扉　http://www.edu-k.jp
えでゅけ
Edu-k Journal
vol. 12
Winter 2016
BRAIN GYM JAPAN　季刊（年4回発行）発行：NPO法人日本教育キネシオロジー協会　東京都千代田区平河町2-11-10 パークウエスト301　電話03-6272-6037　企画・制作：KIスタッフ

2016 NEW YEAR
更なる学びの一年に

NPO法人日本教育キネシオロジー協会理事長
たむら　ゆうこ

新たな年を迎えるときには、一年間はどんな年になるだろうか、と思いをめぐらせるのではないでしょうか？　皆さんも、様々な思いと共に2016 年を始められたことと思います。
当協会では、ブレインジムの普及活動の一環として、海外から講師を招いています。今年は、教育キネシオロジーの創始者であるポール・デニソン博士を９月に招聘し、３つの講座を教えていただく予定です。デニソン全脳学習メソッド(Dennison Whole Brain Learning Method）は、どなたでも受講できる講座です。事前にブレインジムの講座を受講する必要はありません。
脳の全てが一つに統合されているという状態での学習の素晴らしさを体験し、最良の学びの環境を創造する方法を学びます。また、直接、創始者に質問して答えを得られる機会としての一日講座も予定されています。こちらの講座は、事前にブレインジム 101 の受講が推奨されますが、教育キネシオロジーやブレインジムは初めて、という方も受講することができます。
一方で、協会の活動の一つに、インストラクターの養成があります。セシリア・ケスターさんが教える、『特別支援を必要とする子ども達とブレインジムを結びつける（Brain Gym 170）』は、昨年から日本人のインストラクターを誕生させるためのトレーニングが始まりました。セシリアさんの来日は、今年も11月に予定されています。
日本各地に広がったブレインジムインストラクターの数は100 名を超えています。昨年 12 月に協会が主催したブレインジムインストラクターの養成講座（BGTP）を終了し、既に活動を始められた方々もいらっしゃいます。様々なレベルでの経験・体験を通じて、教育キネシオロジーとブレインジムの多様性が示されることでしょう。
新しい可能性に向かって、協会もまた活動を進めて参ります。
皆様のより一層のご支援をお願いしたいと思います。

教育キネシオロジー創始者ポール・デニソン氏 2016年 9月開催講座

◆創始者から深く学ぶ　Master in Depth (471)
この講座は、デニソン氏が実際にどのようにブレインジムと教育キネシオロジーを応用しているのかを見て、学ぶ講座です。教育キネシオロジーの神髄に触れることができる貴重な機会となることでしょう。インストラクター対象の講座です。

◆デニソン全脳学習メソッド　Dennison Whole Brain Leaning Method (BG102)
デニソン氏だけが教えることのできる独自の講座です。どなたでも受講できます。

◆創始者から学ぶ一日講座　Master At Work, Level 1 (BG180)
どなたでも参加できますが、ブレインジム１０１を事前に受講されることをお勧めします。
創始者デニソン氏に直接質問をして、答えてもらえるまたとない機会となります。

シリーズ

ブレインジムをする上で私が大切にしていること①

「自分のために使うこと」

嵯峨　慈子（東京）　自然療法の国際総合学院IMSI副学院長

今から 11 年前、32 歳の時に初めてブレインジムを学びました。その時の感想は「えー、こんな勉強があるのね。もっと早く知っていれば、私の人生、違っていたかもしれないのに」と思いました。なぜなら、子どもの頃、勉強やスポーツ両方とも苦手で、友達の輪の中に入る勇気がもてず、学校に行きたいと思わなかった体験があるからです。それが32歳でブレインジムを学んでいくうちに、学ぶ姿勢が積極的になり、気持ちよいくらい自分の変化や成長が感じられました。ちょうど結婚、出産、子育てという人生の転換期にも重なりましたが、妊娠中も出産直前、産後すぐから本当によく活用し、その恩恵を感じることができました。

日頃のブレインジム活動は親子組、お母さん、セラピスト、全国大会で活躍を目指すスポーツ選手や指導者の方と一緒にしています。次回以降このことに触れますが、まず私が最も大切にしている「自分のために使う」ことについて書きます。

私自身にとってブレインジムは自分（脳と身体）を上手く活用し、よりよい成長をしていくための方法です。子どもを観察する時、応援したい時、子どもがストレスを感じている時、職場では集中力や創造性を高めたい時、講座の準備をする時、同僚スタッフの強みを生かす場をつくる時に活用しています。

私がブレインジムの体操をする時、大切にしていることは「今、何を大切にしたいか」確認するということです。するべきことが多かったり、消極的な考え方でストレスが生まれている場合は特にそうしています。すぐに分からないときは、たいてい呼吸を整えてクロスクロールをしています。

また、子育てや仕事場でする時には「まず、自分から」を心がけています。「あら、名案わかないな、ブレインジムしよう」などと言って堂々と始めます。見ている人は、「人って、気持ちがのっている時もあれば、そうでもない時があるんだな」と思うきっかけになりますし、いつの間にか見ている人が使っていることもあります。

「まず、自分から」という効果は大きいと感じています。

BGTPを受講して

高石　美保子　（神奈川県）

同じ釜の飯を食べた仲とは、言い得て妙。
4泊5日の合宿をともにした13名。北は北海道、南は九州から参加した人々です。
初日にはよそよそしかった間柄も、最終日にはすっかり親しくなって、お互いを祝福していました。そして、みんないい顔でした。
会社や施設を経営する人、OPの人、臨床心理士の人、特別支援学校の先生、職場のトラブルを扱う相談員の方、等など。みなさんブレインジムの素晴らしさを心の底から感じて、インストラクターを目指した人々です。
長かったようで短かった、いえやはり長かったかな。
今思い返すと、なんと巧みに構成されているプログラムでしょう。この5日間で、ブレインジムのエクササイズの紹介・ブレインジムの特徴的な言葉の理解・すべてのアクションバランス調整を網羅した体験またはプレゼンテーション・その訓練もするという楽しい？　演習内容。人に伝える、教える立場になるわけですから、それなりのトレーニングを受けなければなりません。
家族に電話して、「子どもに泣かれた…」と話した子育て真っ最中の人たち。でも、外は雨だったことも気づかないくらい集中していました。同じ釜の飯を食べた同志は、それぞれの場所でこれから素敵なブレインジムの花を咲かせることでしょう。

シリーズ

ブレインジムと私⑫

このシリーズは、インタビュー形式での連載となります。ブレインジムとの出会いや活動を皆さんに熱く語っていただこうと思います。

『泳ぐヒレも翔ぶ翼も』

福田　燈さん　（栃木県宇都宮市）

Q）福田さんのブレインジムとの出会いは？

はじめまして、福田燈です。私は臨床心理士です。発達障害の方にかかわる仕事を中心に携わってきました。
受容と傾聴のカウンセリング、心理検査、ABA、認知行動療法、SST・・・いろいろな方法があります。それなのに、今できる手立てが「ほめる」ことだけ？　他に何もないの？　お子さんに接してみると、癇癪は嵐のようで、とても収まりのつかない爆発だと気付きました。こういう場面に日々さらされ、愛するお子さんを癇癪の渦から救い上げられないご家族の無力感はどれだけ大きいでしょう。
そうしたお子さんのほとんどが不器用さんでした。自分の体さえもコントロールできないのに、どうして見えない感情をコントロールできるでしょう。「体のコントロールに役立つものはないか？」と探していて、被災地支援で出会ったのがブレインジムでした。「こうやってすると（レイジーエイト）、LDの子が文字を書けるようになるんだよ～」と児童精神科医の方が教えてくださったのです。これかも！　と思いました。

Q）現在はどんな活動をされているのでしょう？

乳幼児健診での子育てや発達相談、またスクールカウンセラーをしながら、ブレインジムの個人セッションや親子ワークショップ、講座開催などをしています。

Q）将来の展望は？

私の関心のあるテーマは教育です。私たちには左右の脳に左右の手足・目と耳、豊かな機能を持っています。座っているだけだと目と耳と手が中心で口も使わないです。もったいないです。学習スタイルのバリエーションを広げ、体を使って学ぶ、遊ぶように学び、遊ぶように仕事する社会を目指しています。

Q）ブレインジムへの思いについてひとこと。

ブレインジムは、いつの間にか制限している自分の能力、こっそり物陰に隠れている輝きに出会う、パワフルな手立ての一つです。長所は人を手助けするために与えられたもの、短所は愛されるために与えられたもの。凸凹だからこそ、人と人が手をつなげる。それに気づかせてくれるのがブレインジムですね。

「特別支援を必要とする子どもたちとブレインジムを結び付ける」BG170・BBA

「セシリア・ケスター先生のセッションから」

多田　淳子　（岩手県盛岡市）

“The way we say something has an effect on the other person’s neurological system.”
何かを述べる言い方が、他の人の神経系に影響を与えます。自分の言葉遣いに気をつけてください。あなたがどんな立ち姿なのか、それもまた、相手の人の神経系に影響を与えています。示唆に溢れたセシリア先生のセッションの中でも、特に印象に残った言葉です。
私は現在、精神科病院に入院中の子ども達への学習支援を行っています。それまでは、30年以上にわたり養護教諭として、学校の保健室で生きづらさを抱えた子ども達と向き合ってきました。保健室にはいろいろな入場券を手にした子ども達が飛び込んできます。彼らは、いち早くその集団、社会、時代に警鐘を告げるカナリヤのような存在でした。そして今、精神科で出会う子ども達は、発達の課題、虐待、大人の事情に翻弄されながらの生活、貧困など、まさに羽根を痛めたカナリヤそのものであると実感しています。学習空白が長期に及んでいる子も多く、自尊感情も持てなくなった状態で出会います。
そんな中、ブレインジムに出会い、セシリア先生のセッションを受ける機会に恵まれました。学習プログラムにブレインジム、BBAを導入したところ子ども達に変化が現れ始めたのです。特に有効であると感じているのはBBAの Spinal walking、Core activation です。何があっても安全という感覚に働きかけていると感じます。自己効力感を獲得、再獲得した子ども達は自分の未来に希望を見出します。 教育は『希望の処方』であると感じる瞬間でもあります。セシリア先生のセッションは視覚、聴覚、言語、非言語の情報提示、構造化において、ユニバーサルデザイン教育そのものであると気づきました。 “解決策の中に身を置くこと”・・・先生の哲学に触れながら、セッションの結びの言葉に背中を押され、今を生きている私がここにいます。
Let us begin・・・